花江都歌舞妓

年代記

三編

貳

津田文庫
文庫1
1767
10

早稲田大学図書館蔵書

六孫左衛門。白左衛九郎。松王丸園十郎。女代は五郎。市八。六孫松江。庫

市三郎。悪太郎よの宮。義経。新中姫。松本七義。武蔵坊弁慶。源義経。四天目。雷神。栄十郎。

越前中大尉なり。六月十三日年号改り明和元甲申年九月より市川海老蔵丸七回忌

追善。園義女濃姫の俊寛。ふるふ松江。園十郎久米寺蟬正の毛抜。續き狂言中

園義小糸の万三郎。聾の仕うち大ぜい。市村座。勝合川實記字十郎より兼赤松

まん祐よは五郎。同新見世菜花漬雪初雪。義経の子一平。本名尾形の三郎二役。第五郎。

義経と雑掛五田平二役は五郎。糸南人実は越中の治郎三郎仲義。白拍子もぐ巻ふ

松助。女人両役なり。岡辺の六孫左衛次宝蔵の鰐口の中に隠したる。内侍所の鏡と取合

もぐるを。もぐ巻ふさ〜へられ五孫の橋の柏子。本松助大尉なり。竟ふ流をぞん取尾形ふ流。

平家へ一味をとぐめ。清水の尾形ぐ母の蛇形と名ぐふ大詰大蛇の形まで大ぜい鬱の尾ぐ部

表三。上つ羽尾蔵。二母〜忠度。七鐘撞宇佐幣。大ざるまう。陪左衛冨士田吉次。ぐと

かけ合。六孫左妹うく。業山下。左衛牛若丹三郎。本名茅花の次郎住十郎。次郎三郎。次

010190605588

仲蔵。和爽おとけ濱こ助。岡弘の六郎を廣次。一の谷二の切の仕うち世所大評判。山村市村
兎蔵。市村吉五郎。あんもと嫁冊おの平。可愛ら。何ぶも付ぶん世大南芳沢五郎市
改め濱こ助と成。大坂ゆく濱こ助改め。ゆやめとなれ。江戸へ名ゆめの榜ゆ。

大坂より也一陽来復の
ゆこと
ト雛屋はの梅の匂ひを吹
おこれ春ゆも近ぶ〜

新見世や師の名を江戸の春のゆ　春水
かはこんせや讓る紅波はたるの水　一鳳
息こう塩ゆやとも。都の春ゆ　中村芝子

梶原源太景時。村忠。音右衛門。橘俊秀。猪嵐音八。猪の股小平六。助九郎。義つゆの
若男。紅。俣の坂へ出。笑ゆやさむいと言へ。山村ゆ。中村座　五月興行見物帳　芳木長三郎
実へ平親王。門国十郎。渡辺の綱と坂田の金時と二役。国義。平井の保昌七三。安丸ゆ
楽四郎。由良の太郎こ。西義。清水。雷義。白拍子。忠龍。源人のゆ。おきくゆ。菊三郎
三人浄ゆ。積雪。代品姿。富本大和太夫。同常太夫。山岡三郎。坂東又七郎。次。菊三郎
とたこゆ。侍姫と。和泉式部と二役。松江。森田座

御製哉恨惠
十六歳つゆ
十六ぶん後
十六歳ゆ
助高屋高助

ゆ。宗十郎。雪中江く玉ゆ箱を拾ひ。浦島四郎ゆ。弘ゆ。沢村宗十郎。女馬士。平兎
の相ゆ。川合せの口上あり。揚名之助。侍九郎。ふ。源四郎。廣右衛門。法橋。ゆ。ぜん。相山紋次。
かるわ五郎。五十郎。若狭の屋。常世。紀。第九。沢村。今平。今の助。ゆ。ちのぶ。九。河田三助
四代目　市村羽左衛門　ゆ人。縁ゆ。白狐の神ゆ。草苅。さんうの平兎。大ぶ。此。新見世。坂東三八。大坂へ登りて。
三桝大五郎。庶ゆ。ゆ。竜都。弓勢。寿ゆ。侍。寿。寿。郎の役。大ぶ。と。評判。尾上春。郎
中山文七。庶ゆ。笑。桃太郎。拒。嘲ゆ。尾上七三郎と。改名。て。荒。満。栄。荒の助と。万歳。三助
実へ。雄水の定。光。二役。も。評判。ゆく。赤。大坂ゆ。頼。ゆ。の。数。手。尾上。新七と。改め。又。鯉三郎
と。更。後ゆ。立。役。の。上上。吉。ト。成。

明和二酉年　市村座春　色彩組合見物　立役。祐経と。ひさち

小萩。二ゆ。第五郎。鬼王。ゆ。宗五郎。赤沢十内。音右衛門。七。ゆ。のなぞ。ゆ。平。ゆ。一ぶん目。ゆ。
江戸名所都鳥追。濱ゆ。文字太夫。ちぶ。ゆ。ま。ま。造酒。ま。そ。の。五郎。坂東。三。照。ゆ。ゆ。
嵐雛治。ゆ。縁。坊。左十郎。法界坊。仲蔵。吉田の家。侍。軍助。羽左衛門。女房。荒。子。尾上松助。
ゆ。且。ゆ。大。ゆ。ゆ。二。ぶん目。松井。源水。第五郎。慶治と。助五郎。濱。蔵。欲。駒。の。角。力。大。ゆ。ゆ。

四月坂東表三元服あり。同春中村座 天津風今朝ぞ かげ清国十郎。七三を思ひて紅梅の
枝をつゝを抱くの目あへ伽とつゝゆると宗伯のかへ上は。言葉義新五左の女郎買大でき。
五郎八百義十郎こゝ義。幸四郎初役弱工藤見事ふ対面の所大でた。雷義病まにく。
佐殿の後郎左衛門八百義勤る。八ッ上し松江首切て吾治坊の身替りに立る所評判上。次る
第三悪お花ゆ上撞へ入。国十郎お人対の振袖ゆて出。松江こゝ義四人の所作。先年ゆ上」と
つゞら大でた。五月替り 偽名手本忠臣蔵 由良の助七三。師直ゆ幸四郎。あんや判官に言葉義
名桜の助と天川屋義平雷義。女房おそのの松江。勘平八百義。定九郎又七郎。九郎ゆ中村
三浦をつゝ。おゝる第三悪。とゝゆ吾妻義。平左衛門十郎二役。伯耳も大当り。
此月国義中村座を引。霜月大坂へ出る。赤穂田座 分身鏡曽我 工義左衛門祐経と十郎
祐成。五郎月村宗。三役沢村宗十郎。朝比奈伯九郎ゆて対面の作意面白く大評判。
中村座八月より第三悪十七回忌追善 けい婦人稚子名屋 けい婦かつゝた二代目瀬川第三悪
娘おみる七義 (けい婦ゆ七義大でた。評判大でた。) 同母国五郎。上林伯三中村伯吉。山中鹿三助ゆ中嶋

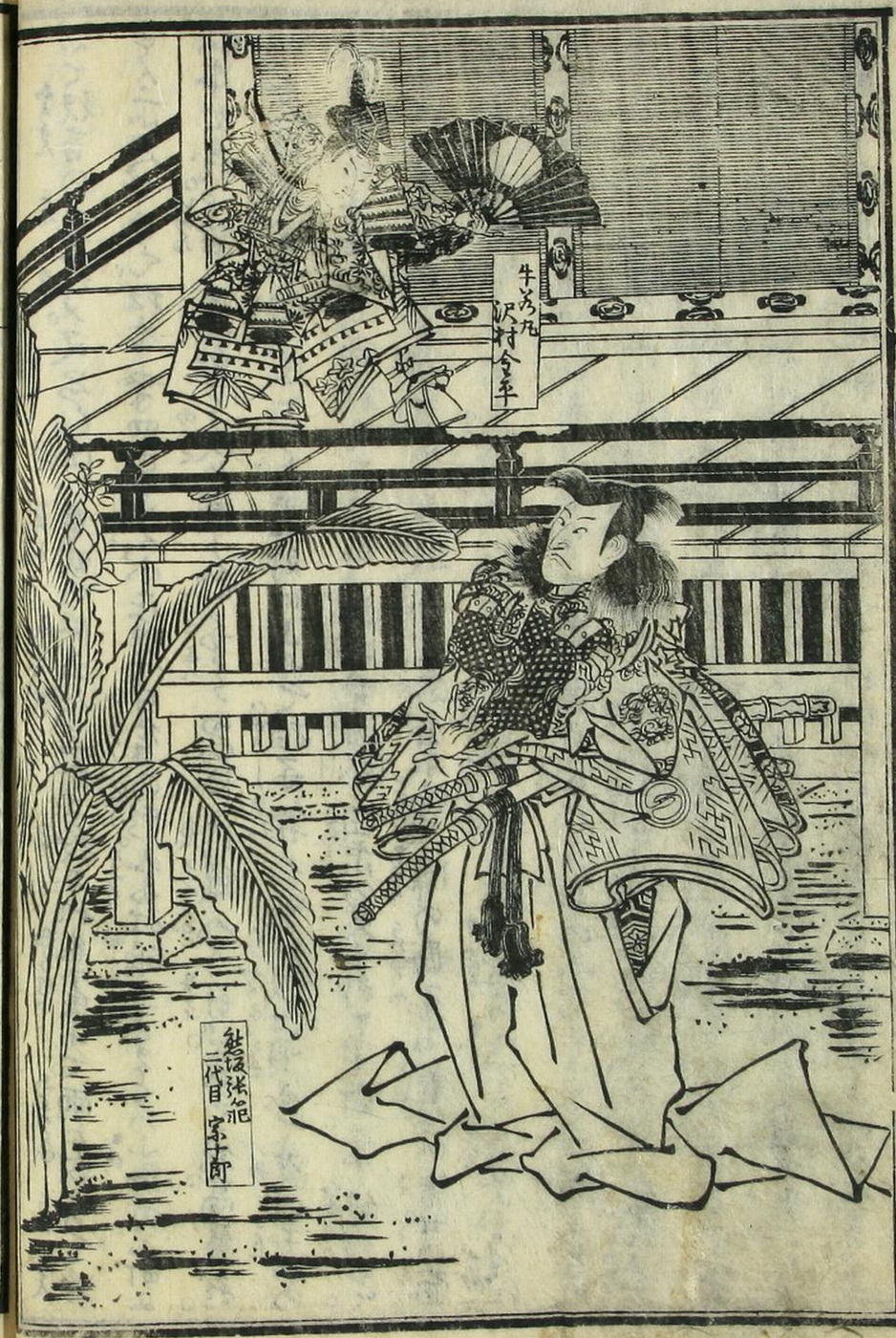
三郎義。けいせん高間松江。名古屋山三郎三郎ゆる義。ぜんまの裏の八兵衛実ハ由井ゆ濱
の忠郎国十郎。大当り。同秋市村座 女夫星逢初町 ゆまゆ第五郎小野小町ひる次源草
ゆ上得羽左衛門長順百夜車ゆ田吉次ゆて伯ゆ大当り。四月義を村ゆ上。狂言ゆく。
手越三平ふ庚次。松助井筒姫ゆて。娘姫のあり。文徳天皇の天皇の土器を割ゆ悪
奴の孫田平坂田作十郎ゆて井筒姫をこゝ。恨ハおゝふゝくとゝふ。夫より庚次と大勢れ奴
と義仕合中行者坂田国八。沢村沢義。大谷庚七。尾上治郎助。沢村和田義。伯れも大ゝて
ゆく。市川松三郎東のさゞ元の家根より。松の木を枝ゆて出ゆる上ゆて波絶ゆく
三平を打ゝとる所井筒姫の亡魂ゆゝられ。ドロくゝゆて逆さゆふ下のゆ紀へおちる。ゝ所
目を怒るゝ。新見世市村座 隆績花二代源氏 古者安信の清三郎実ハ三郎の小ゝ家近
ふ第ゆ郎。渡辺の綱義三郎。こゝゆ金の保輔ゆ下り松本女十郎。源の頼祝仲義大でき。
義ゆ田満仲辰十郎。笑女作第の松助。物ぐさを郎狂左衛門。お姫ぐゝんごう。本名右軍を郎
良門作十郎。お姫ぐさを鬼同丸ときゝて。牛の血ゆて洗級の盃に頼光を亡さんとゝふ所

大でん。次ハ鬼同丸渡辺ハ殺され一念ゆえ宙へ引上る幕。清ハ文字太夫浄瑠璃ゆえ。蜘蛛絲梓弦。羽左衛門土蜘の精霊きり。秀馬員の巫。仙臺文弥酒田の令射ハ大谷廣次。雄水の定光沢村宗十郎。浪ハ巫女山伏清ハ助。羽左衛門大清渡辺ハ吉三郎ハ武ハ佐十郎。四神の旗を四天王打出る。羽左衛門土蜘の出幕。伊勢も大当し。中村座神樂歌東の錦

国十郎紀の名虎ハ山籠の姿ハ出すより我万字の位よりたんと室劔内侍所の渡と焼失せんとする所へ。皆と声をうけ。姿の大猩武虎ハ五郎ゆえ。虎心猿のせりふあり。惟仁の牙習りをたんと世を名虎ハ滅の惟仁を討ル。ちん彫ル実ハ勢海の内侍と密通の悪ぶり。女房あやせ常世駆ル者。

八百蔵。荒巻耳四郎助五郎。行平ハ七三源草の少将ハ藤義。大伴ハ三浦左衛門。岩根村のおとぎ中村松江。実ハ町と成く大内へ入込。惟高ハ王三浦ハ惚られ狂女と成関寺小町の巫。長吉根江ゆえ大当り。五代三郎ハ五郎。妹ハ町第一悪婆ハの巫ハ。兄の吉三ハ切。小町の牙習りハ髪結ハ。ハ根江ゆえ。浪ハ二階

ゆえ祝言の声を出す。又ハ出し。嫉妬の恨五代三郎ハ殺され幽霊ゆえ。雨乞の舞を吟ハ大できる。松本幸四郎死人小左衛門日雇の形。ゆえ踊子まとハ小野の小町ハ松本七郎。岩井ハ四郎と改め。国十郎ハ。ハ。ハ。



然野の兵生ひ[illegible]然井を郎と名乗ふ常盤に[illegible]ふる物語り[illegible]ハ我娘とや牛若
君ふ流せさいとの愁歎あり。鞍の鬼若丸ハ又を郎。今より汝ハ兵衛と名を更よと盗人の
道具を忠義の七ツ石具と渡さ[illegible]まで大尚り。狂言大出ず[illegible]侍九郎[illegible]との評判。股北
の文郎大谷度をつ。今度吉次森田ん添。沢村田之助 後沢村宇十郎とする 三ほの和実とよとも 産沢頭の二役
大ぢた。足沢村今平ハ牛若丸の役 仕舞十字後年激川雄次郎又沢村四郎兵衛 その後市川谷蔵と名乗り又助る蔵る助る蔵 明和二乙の酉年。

評判記ハ ▲弟子之部　上上吉

(いろは)源ハ梅檀ハ二葉ふよりかんじて二雅之ちらぼ[illegible]
[illegible]さいて上上吉ハぞふぞや (ろは)目 是ハ時考[illegible]
上上吉と申ハ[illegible]の奉侍ハ[illegible]
沢ふ鬼ハ[illegible]

(い)　沢村今平　歌田社

と[illegible]ハ貧鬼の[illegible]
大のき[illegible]ハ馬士の[illegible]

あらくへ怪ぎやく。トありしも宜なるかな。今助高屋高助これなり

明和三戌年　春中村座

侍道二豆春駒　三ヶの庄を伊賀川津より押掠まれて工藤今右衛門なる越向の狂言。我八富貴の行列。めて半五郎。鬼王庄司左衛門の志ふ髪。狂又今右衛門。近江の小夜衣ふ三郎義八幡三郎八百義。川津より恨あり。討面せんと駕をもし留石を推ひれば。一万箱王あて。陽炎作なり。後より川津主矢ふ尚り。鬼王庄司左衛門切腹。月さよふ常世。万こうに松江。そゞの太郎七三。丹波の与作八百義。関の小女郎第三悪小はし四郎。馬こ江左平助五郎。伊達の与作。国十郎。今貫弁慶。けの改常四郎を殺し。狂子の名ふ合のところ。又ふ物袖を絞る。幸四郎大尚り。付より日ま場大評判。市村座二月十日。**曙花相生曽我**

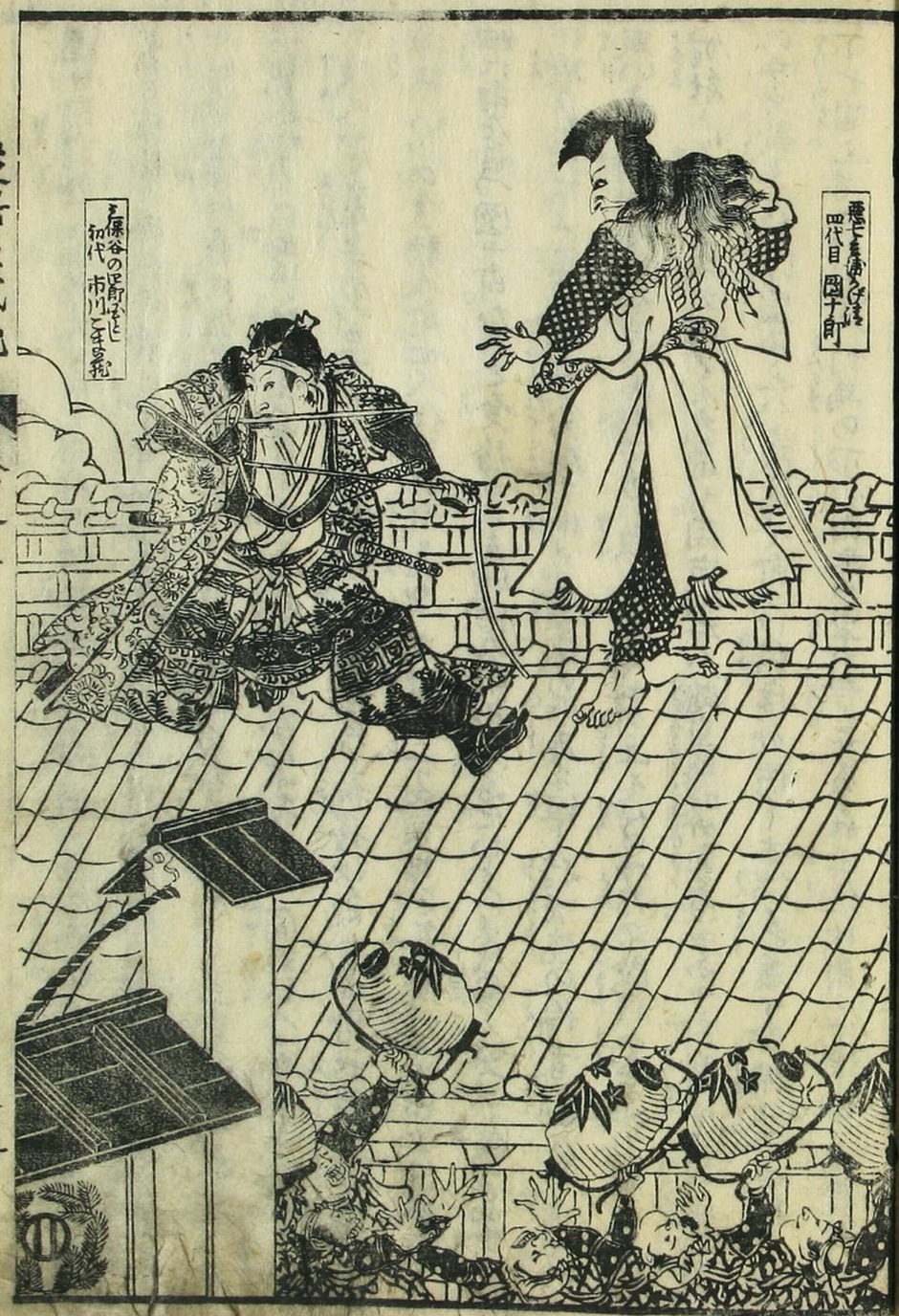
又夜祐経羽左衛門。十郎義三。五郎虎次。鬼王第ふ郎。月さよ松助。二月廿九日もとやゆ油見世より出火して大府ふ町打殺と。森田座。三月八日より。**義経千本桜**　いがみの権太ふ宗十郎。ちゆの小金吾。今平。静ごせん坂東彦義。右信。添九郎狐めづま菱彦義。弁慶ふ又左郎。渡海や浪平雷義。添左衛門。娘もさと雛次。市の忍かちや重次郎。

きけの局菱義。安徳天皇沢村田之助。仮まも大尚大入なり。同秋**針供養乗鳥利生**の狂言大工のこ。大府童清生ま中村座**八重垣姫彩色染**　おセ松江。吉三郎ふ市川兵義。後ふ五代目吉祥寺ふ羅漢五郎五郎八百義かまや武三郎。三浦ふ土左衛門吉幸四郎。後ふ五代目吉祥寺ふ羅漢お枝第三悪ふ。浄るり文月笹の一夜。富本午之助。後ふ前髪の比丘沼ふ。後日狂言石川五右衛門ふ国十郎ふ。同秋**太平記菊水ふ巻**　常住国十郎。在兵衛と石堂丸解由ふ郎。奴照平八百義。菱柳のたて大でん鞠ふ。秋夜幸四郎評判ふ。市村座**見模様近江景**ふ荒木左衛門第五郎。田畑之助。菱次雲井ふ。松助。嫉妬ふて三井寺の水。赤十郎と水仙のたて大でん九月より第五郎大坂へ登る名残**偽名手本忠臣蔵**　由良之助とゝふせ第五郎。大こ尚り。中村仲義。定九郎の役。まき小袖一ッ。ふるゝ。大評判大尚ふて今はいろいろ。此国と。まるぶ。新見世中村座**金花鳥蓬莱山**　安倍の貞任ひり。桐谷。佐左衛門。宮内任ふ幸四郎。浦の宗十郎。国十郎。ちゆのちやひや大王仲義ふて八幡左郎義三。加茂の次郎義。ふくと。ちゆのこゝろの。浦添ふ郎。ちゆ。頼れ。ふ。雷義。荒川左郎ふて門ふ。ふ。ふ。ふ。

大王。安倍貞任とゝゞれ。外ヶ濱の南三陽と白状をする而。仲哉大でゝ九郎は呂郎。義家の
濤三助。ゆきうの泥を郎音八鍛練山くんの母ヒ。大名大ひ大南り。名知る保方よこ手義。
どうよ機松江。誓奢の正俗別とゝ人大南り。市村座（東山殿戯場朝日）出雲のお国第三恋
源の義ゆて三浦左衛つ。荒獅子男三助下り坂本三八。三人持横堂のせり出。我昭三郎の遊
慕ひる男三助殺さんとする時下り国義誓くと声ケ付左衛つゝて五ヶ三八京都の住左うゝ
源義経の男三助うとゝゝ三郎三恋。とゝゆを見る時。お江戸のけき出。かつゝき屋と。三の
清の新見世俗者菜陽の越向三郎柴兵吉八百義。ゝきち日向は五郎。波辺民部厚次。
清村ぶん正助ゝ郎。唐琴ゆゆづま義義三。ゆも大でゝ。泰田社（角文字住豆腐）経行しも
附政坊ゝ十郎。頼朝坊ゆ下り坂東三清五郎。と俱よ江の清へ寄。けのせん清清松助。清入の
場大和三郎三清淵江ゆて正俗大でゝ。後ゝ清の中より兵衛天と江れ三郎と鱗と。竪吉の新吉を
捜らゝて正ゆり。後ゝ小孫附政宗十郎。奴郎助と清ゝ郎。ゝ正。折大ゝ郎実八文学ゆゝ坂田
左十郎。武狂言今井三郎俗判ゝ。三清ゝ郎森田座初年義ゝて。浮判記ゆ上上吉

東坂東三清ゝ郎

春日座。○ゝゝ東力ゝ所の婿半ゝよんゆゝゝ。○付ゝ曰坂東三八大坂
ゆて行田已三助の義云ゆ宗ゆ有なるゆを三て。弟子とし坂東三清ゝ郎と名号宗郎
引合せの口上ゆり。浮判ゝ。今年夏惜ひ。小佐川常世 常世院巨心日撰 明和三
丙戌年五月十二日。行年四十三戌ゆて絶る（明和四丁亥年）春中村座（初商大見世義）二番座
ゆて下り桐谷俄左衛門。十郎三浦義。五郎市川兵義。中村冨治くゝ越のせりくゝゆて娘
七草の正俗對面。同年新橋松坂玄見世びくゝ敵松ゝ五郎と吳服屋の暮ゝ代
高雄義ゆて実ゝ三保の谷四郎。音八鬼王ゆて万引ゆゝりかゝりの正。大名ひ。園十郎宗清
家根住合。ゝゝのゝゆ搦られゆゝゝ清三助琴ぜゆ。ゝゝり。臘月。人丸姫は四郎。久米の
平内廣左衛つ。手忠七三伊ゝも大ゝ南り。園十郎宇治ゝ。二番目本町九の御五郎。
雲義宿ゝゝ付る雷義義。ゝ。ゝ。ゝ



蓮花院詠行 行年四十四才 同市村座 曽我和曽我 工藤祐経 ほうの郎。鬼王団次郎。おとち

第三段。吉三八百姫不入ゆる 大悪思議 由良之助団蔵。次郎左衛門。義平二役

三八。十郎。虎次郎。世房おとえ 第四段。動平八百姫。種長之助。祐左衛門。後ふ

世界坂三段 女夫 ちちよふ 夏姫。ぼ三郎。虎次。おとろ 第五段。徒吉清。八百姫。二日酔。

祐左衛門。赤十郎。ひとまる物ぐし の天ぐ。亀姫。面ぶり。丸屋仲三。おでん。同まえ

春田庭 皆覚 百合若臣 ゆり若ふ 若十郎。緑丸の鷹。精灵松助。府左郎。佐十郎。仕言大

寄り。同秋狩三 摂ふ 若十郎。大森彦七。佐十郎。狂言大てい五月中村座 義経千本桜 忠信

源九郎狐二役 こ 陸義。ちづま松江。ぞ 祐左衛門。相模 俊左衛門。娘おさと ま四郎。これ ぞふ助

坂東彦三 いづみの権 ま 幸四郎。梶原 虎 祐左衛門。小金吾 兵義。さけの局 ぞ 助川。弁慶 郎

中村仲義。大鹿 ま 兵衛ふ 義十郎。渡海 浪平と。筑川の ぞ 飛団十郎。同秋 其名月色人

四天王寺の楽人 富士演 間の世界 団十郎。前髪の下 初 壁平にく。お未記をひくけば。北方ふ

星下る 亟あり。仲義 大太場の ま 奴 評判は。音八と 破車の 亟 飛。狂言 ちろきと せど。代 海へ。

[illegible]

国十郎が神を出を大てしく。市村座秋[義経千本桜]は忠信と狐の二役。静はぜん
第三段後ふ市川宗義久ボ寺渾正毛髪の場を出を評判は新入世中村座[大平記賢女振袖
竹林院公重仲義。瓜生利官度左衛つふひ付内侍の命をそんとする正者の塚保姫ちるふ
八百義。ほ〳〵くの出は。新田義真ふ兵義。栗生左衛つふ左十郎。同妹いつきふ三手之丞今様
の役人ゆて業平あづま下りのせり出ふ山田太郎義三相撲次郎幸四郎。村田武員ふ義
源部いぶのち助八郎。四人仕丁の形元ゆ大評判。二ゆ同せど茶賣一ぷく市三郎。本名を
畑六郎左衛つ国十郎。なぶと愛拾ふ八三郎左衛門。元ゆ三おどり義真とゆるぶ娘ゆ四郎。
の取りもけ所は。次ふ小係秀衡と依り。ゆ氏の非ゆ組一持明院の倫旨。勅命の命を請
取つよく新田七七せとゆふ村さうへ致ちいそうちの立ゆ出るの敵役実八畑六郎左衛門
付社と名ある所。大評ぶん大南。同市村座[義経千本桜]重藤吳分勇者ふ十郎頼政と経盛六郎
の母と敵と二役清盛ふ三八。上総の七郎うげ左衛次佐〳〵木係義盛十郎。佛法の中村秀松
丁七唱三浦五郎ゆ人竹馬の所。ゆやめの母ゆ吾妻義経土佐次郎ふ十郎。武義光左衛

ふ三八。三人ゆ五郎妻母義所。所ゆ。長田の太郎住十郎。大詰浄瑠りゆ入住弓張月。羽左衛
蔵の母二役西念坊八橋ふ孫の所。文字を実ゆて大でゆ。後ふ鶴の精実大でゆ。手人かぶろの内
月若市松。吉ゆ郎元若。義経第若。沢村四郎五郎義ふ田三助雪ゆ。評判は同〳〵
森田座[直写市盤吾土産]さの田の子市と同文義ふ国義暫の清八。大場の三郎ふ三浦左衛門
清盛ふ初ふ左衛つ国清の四郎富沢辰十郎。頼朝ふ三升屋助十郎。牛ふ矢ふ綱を伊義が娘
辰姫ふ。京下り山下来三助。さぐらの出潟長順ゆて所。次ふ佐五郎相くふ三輪乃
流ゆて。を敷のくて大でゆ万ふ。尾上松助。鬼王ふ五郎けのせん孔雀実八白川のお辰狐
松江。股野の五郎ゆ。ゆ郎と。ふ出一の主浮判大南。[明和五戊子年]春中村座[筆始曽我章]ふ
工藤国十郎。三ぐんゆ七郎ふ。吉三左三郎。ゆ坂清三助。幸四郎ふ。ふ糸の安欲大でゆ。
伊吉国十郎。今座武三清仲義。大通仕立の形ふ。ゆれ七ふ所あり。大評判左三郎病ふ。
市川兵義吉三の役を勤る。左三郎ふ親の濃り。けれ今浪も老少不定寂光の芝居へいそれ
竹世のひいきふ紬をねぶし。金武ふ菩提所ゆて。茅野水所持の蔓茶羅七浮ゆ世長ゆ坂東

孝三郎墓石と札を建る花の大入を戒名をこゝに記す。妙果院薪水日成 明和八年
子五月四日 俗名坂東孝三郎。行年廿八才と。深川浄心寺ゟ印塔をのこす。同夏狂言中村座
操歌舞妓扇 浄瑠りの書物ゟ我祭を出す 五人男 雁金文七こと孝義。極ゟ左衛門ゟ
幸四郎 後ゟ白猿ゟ 番左九郎ゟ助五郎。安の平三郎八百義。ゟ市左衛門 青八 菅原 附平太臣
三郎 宮ゟ猿九ゟ又義。梅王八百義 松王幸四郎ゟ 忠臣蔵 おりゟ幸三郎。由良ゟ助ゟ七ゟ
平三郎ゟ国十郎。定九郎仲義 青柳硯 道風こまゟ義。良実ゟ八百義。ゟ町ゟ四郎 信仰記 松永
大膳国十郎。木下兵吉佐九郎。雪姫幸三郎 十姫源氏 物ぐさを郎こゝ又義。かつぶしゟ源ゟ助
狩世幸三郎兵義。仮ゟも役者得ゟ物ゟ大評判大入ゟ 同春市村座 酒宴曽我 五郎
左衛門ゟ次郎ゟ。八幡の三郎宗十郎 近江の小菊を八十郎ゟ羽左衛門五郎又ゟ。松ゟ尾
ゟ佐十郎。天狗の術をゟ。小栗判官羽左衛門。彩ゟ。ゟの話女。市山七義。小栗
を郎ゟ三津五郎。左外方大ぐれ二ぐれの跡八代目羽左衛門七回忌追善今九代目羽左衛門
勤る宗十郎 俊寛。ゟづま菊義。お母ゟ。次義 垂王ゟ 森田座 都鳥東小町 小野小町山下

京三助。少将ゟ弁慶助十郎。ゟ国義ゟ。同夏 出世太平記 春長ゟ国義。武智ゟ
ゟ五郎。久吉ゟ国義ゟ。同秋中村座 天竺徳兵衛韓噺 天竺徳兵衛国十郎。二ぐれ目茜ゟ
半七ゟ八百義。三勝幸三郎。ゟ紙やゟ三郎佐九郎。盗人宵蔵の仁助幸三郎ゟ。天ゟ三
ゟ。仮名手本忠臣蔵 平仲義。幸四郎を土橋の場大ぐれ。高麗義さぐれ役評判よく大入。市村座
伊勢参大同三年 清玄ゟ羽左衛門。揚巻市山七義。同 手習鑑 かんしゅぐ羽左衛門。附平太臣坂田
佐十郎。白太夫菊十郎。松王宗十郎。女房ちよ菊義。お王又ゟ郎。横丸ゟ市松。とゝゟ郎ゟ坂ゟ
こゝ八。女房ぢ田七義。八重ゟ沢村宗郎ゟ。武部源蔵こゝ津五郎なり。ゟまゟ大ぐれ。同春田座こゝ
伊達模様雲稲妻 羽生村の累ゟ。紙ゟ不破の伴左衛門国義。山こゝ助十郎。ひいせん菊減松江。
跡ゟり 古戦場 後菊こゝ国義。江田の源義ゟ。ゟ郎こゝ。彩見世中村座 今様盛末廣源氏 こ
ゟ平こゝ清宗十郎。清盛ゟ中村歌右衛門。重盛ゟ七こゝ郎。文覚上人こゝ佐九郎。
源氏の六ゟ助ゟ郎。拿ゟ法橋坂田菊十郎。牛ゟ若ゟ義。浄瑠璃ゟ常世こゝ田義人
ゟ八百義。するゞの治郎こゝ義。冷泉ゟ幸こゝ。行事ゟ菊角力せり義ゟ。

能野ごぜん雛次。幸四郎ハ法橋が娘雛次。誠ハ清盛の御家盛と入智子との悪ゝ成
不よし。為の妨と養父法橋が首を切切。女家盛となり東常丸て家内せんとするところ
すき図。仲義三國の九郎丸。獅子王の甲とかぶり。菊之丞と石橋のゝて大ぜ死去大
和国十郎。あやうめて女房かゝ藤浪三助。ゝ。ゝ。ゝ

初比ゑふ三八鬼王廣次ゑ三郎又七郎神の対面大評判こゝの春より宗十郎
至上上吉と成清ゑの冠者京之助千葉の ゑ四郎ゑ三佐ゝあづま義経中村市松
道成寺のつキ仕ゑ羽左衛門うゑ馬の判官盛久浄るり道成寺の所作大でゝ国義ゑ兼清
宗十郎ゑ忠ゑでん同加賀のおきく尼郎ゑ幸助山下京ゑ助王面新ゑ清羽左ゑ大門
の四郎ゑ清廣次根津の尼郎ゑ清ゑ甫左衛ゑ赤ゑ助ゑ助ゑ面の所作を出ゑ同歌田座

〈関取千両幟〉岩川ふゑ三ゑ五郎。浜ゑ獄ゑふゑ郎。宗川女房おとゑゑ四郎千羽川ゑ女房
おゑんふ松助。ゑ清孫ゑ宗ゑふ左十郎。とゝゑ三清ゑ辰十郎。沢田でん義ゑふ廣ゑ清ゑ後ふ

〈忠臣蔵〉由良ゑ助ゑ五郎。本義佐十郎。おるゑ四郎。動平松助大評判より中村座
春狂ゑ。ゑ函目歌右衛ゑ病ゑ全快して。ゑ月より清水寺の清玄大当りゑ月ゑ市川
雷義ゑ三回忌追善。伴初年雛義助ゑ松助ゑ。あげ巻ゑ瀬川吉松勤る。同ゑ狂ゑ森田座

〈安達ゑ原〉岩知ゑ多ゑ文次。ゑ塚焼二役ゑ五郎ゑ三ゑ五郎ゑ。ゑぎぬ乗合十次郎
貞任佐十郎。ゑ方辰十郎。文治女房ゑ四郎。袖萩ゑ松助ゑ同市村座〈忠臣蔵〉本義ゑ

義ゑ。かん平廣次。おかる松江。由良ゑ助ゑ助宗十郎ゑ。同秋中村座〈念力楪葉鑑〉浮ゑ清正
園十郎。法ゑ。ゑ間の内。薩ゑ兵庫ゑ。ゑ清ゑ七ゑの義宗ゑ正評判ゑ。小山判官ゑ七三郎。
利根弾正仲義。ゑ義の八郎八百義。ゑ赤左近ゑ。義ゑ。市村座〈富清知恵伝記〉清明
宗十郎。辰夜刃法ゑ羽左衛ゑ浦島七郎廣次。波辺の綱園義。桐馬ゑ郎ゑ。甫左衛ゑ松ゑ
おまゑさふ松江。（付狂ゑ延享ゑ年ゑ。市村座ゑ。ゑ月ゑ九月より宗十郎上方へ出る名残書柳硯）道風の役
を勤る。ゑ実ゑ廣次法六ゑ八ゑ。中古道外方名人嵐音八終る。森田座〈今昔東山染〉山名
宗全ゑ五郎。荒獅子男ゑ助ゑ三津ゑ郎ゑ。ゑ皿ゑ義を取組ゑる狂ゑ。後ゑ雅歌対を出ゑ
御獄悪五郎佐十郎。新見世中村座〈常花栄錦木〉小袋付新八百義。けいせん王菊菊ゑ恋
山岡の三郎中村仲義。赤星左郎中村助ゑ郎。一でん目ゑ主目。紅葉雲錦鉤夜著。浄るり
文字太夫ゑ。ゑ所花ゑ。いさぶりけゑ。ゑ姫本名滝ゑ八郎歌右ゑ。浅岡ゑ松江要ゑ助兵衛
安寿姫雄次郎（四郎ゑ菊ゑ義ゑ。ゑ姫ゑ。ゑ となり瀬川雄ゑ。ゑと改）秋田城ゑ助幸四郎大でゝ拍子の春久ゑ七三ゑ
の姫。瀬川七義ゑ。でん目佐野の孫左衛ゑ。ゑ義。女房白姫ゑ清ゑ勝妹玉章雛次宗ゑ。ゑ狂ゑ

お仲義。三庄左衛門十郎。女房かしぐ欲左衛門。伊豆も大南り。市村座雪梅顔見勢お
和泉三郎下り尾上菊五郎。奴舎那助。実は我孫羽左衛門。花桶を持ての出花乃ふて欲役
女人強みて突き出るをさく人。當月は幸絶させ向ふよりは五郎。兄泰衡まてあのび頭巾
鉄炮を打んとする花桶みて刃を固ひ本兵衛。和泉の三郎忠衡ぞ。
三年ぬりみて國の折柄花道具を持ての振舞。尚るとゝろ有ざけれと命の進上
五ろくねとゝろ大でゝ奴谷平下り大谷友右衛門。添八ひ姿又七郎女人俵のそてゝ忠衡
いめと錦木ふ下り尾上民義。宮城野ふ菊義。那須与市ふ廣治。戸樓の左衛門佐十郎ゐり
武義坊弁慶ゐ羽左衛門。富士田吉次長唄みて安宅れ松の所作大南り。ニだんめ十府の里れ
菅原伝授手習鑑。本名童の菊王丸ゆ五郎。信夫ふ下り中村芝代ゑ六十六郎ふ菊五郎本名を
佐藤忠信ゑて菅原伝授手習を解くとゝろれゝ矢疵ある故怪ゑ次ふ女房伝ゑまゞ流ふて雪
の中へ書し字をゝれゝ見戻の山路の菊を折ゆけばかゝる花ゑ根ふ結ふゐり上みゝ故
次信の故と知る所大でゝ森田座名高雪井強新ゑ世狂言じまり延くゝゆゑゝ不入ゐり

明和七寅年春中村座鏡池侯曙戦五月祐経仲義足利没ゝ十郎ゑ五郎八百姫。
治狐の討面所作大でゝ。幸四郎ゐ力ゐ京の次郎ゐ羅義。麻市川純義。偃偃
師の所作あり。足後ふ四代目松本幸四郎ふ朝比奈ゑ信九郎。松井の源吾実は能ゐ奴ゐ下ゑ條の右ゑ門ふ
ゑ右衛門。鬼王ふ坂田義十郎。合羽ゐ上下ゑ名ゐ。そゐ踏ゐ故事ゑいゝて行ところは。
栗津の六郎国十郎。頃矢鶴ふて源吾ゐ悪事ゑ。義清大結傾所坊
の化粧ゑ。二番目さんやとゝふ紺屋ふ高野公中と取組ふ雅次郎。久米ふ助ふ
兵義さんゐ。名治右衛門義十郎。菊ゑ恋ふ女ふ。
ゐ業ゐゐふ及ゐ。ゑまで絡合ふ。ゐなれ治ゑれ
幸ゑ郎。女人ゐ手草の場大でゝ。後ふゐ業義ゐ。
ゑ半。始終一夜大評判大南り。同春市村座富士雪梅顔見勢五月祐経仲義足利没ゝ十郎ゑ五郎八百姫。
五郎ふ市松。鬼王ゑ次。大友孝陸ゑ助菊ふ郎。ゑ浦の所貝ゑ代ゑ。ゐ侍ゑ次の三郎佐十郎。
卓比ふ甫右衛。近江の小菊ゑ玄右衛。八幡三ゆく度次。五月ふ源氏て後切のところ大でゝ。

大屋因ふ勇を奮ひ。月さよに義を義。大猛虎ふ拉助。かさやこ勝と二年ゝ。曲やは七ふ疾張。
今市兵衛つ友備つ。一ず八ふ代世青と呑。夜人泥仕合也。は七ふ兵備つ暇きゝ而
大でれ大商。こ勝兄弟を遣つ佐十郎。人遠ひ也は七ふ櫛目病中ゆゑ狂言。拍がいどとろ
これを石残ゆとろれ。商ひ和七年寅三月十日坂東六八郎。専譽平久量覲信士ト
三谷瑞泉寺に印を残ゝ。市村座より感義。羽左ふ七枝起復の巫俗。後ふ一の谷熊谷
の次郎軍ふ郎。評判ゝ。同春森田座繰返曽我鄙合俗月さよふ。初しるふ彰れ往経
病中抜ふ夏の奥みちしほ苦と成。足ふ対面ふ絶の出潟。勿体めつてゝ。五郎
は四郎。郎ひる。こ津五郎。傀儡師ゆて出大でれ。二役十郎。唐令文七。安の平三清助十郎。極下
ふ遣ふ下り中村四郎ふ年。ゆて市備つ。ゆり二代目三蔵又九郎。留左九郎。春十郎なり。
鬼王度備遣つ。撥耳吃三郎にく。対面の場。仇義員を拉出。工夫ゝとこれれば我女房故伯ゝ。
振ふ振ふすんとすれど拍いられど。郎ひる。ふ婚後の沢ゆメて怪ぶ而ゝ。二どくゆ。おふ代ふ今俗。
は三清こはふ郎。八百屋後家。度備遣つ跡ゆて今俗女四神伯ゆも大商。今年去和ふ。こ座

ともふ夏まで続き。甲乙なく大商。古う陽義ふ。同秋中村座敵討忠孝鑑軍記
兵庫幸四郎。坂額ゆ義ふ。浦利のふ市園十郎羽生村ふ。義清ふ。ふ備つ。義経
二少ふ目。義経忠三清八百義。梅川ふ松江中の浦の八備つ仲義。九月より歌備つ。ふ名
残狂言五ツ雁金二ツめ。安の平三清の役大でれ。同市村座荒相馬紋日羽左遣相馬ふ
義。風江唄ゆて浦ふの巫俗あり。森田座假名女美のうはの標今俗女田良三助評ゝ。
後ふは四郎。浦ふ。日高川ふ成寺。今俗菖の義早習ゝ。去和六年丑の新見世。京四條
尾上久蔵助座ふ。二代目沢村宗十郎。今年和七年八月晦日。都ゆ。ゆて繰る行年
五十一才。宝林院得譽宗空居士。同新見世中村座雄森一陽絢園十郎。は四郎。
五代目園十郎。と改させ。ふ対ふ沢ふの幸四郎と改め。実悪七三郎中村少長と更る。兵義
二代目市川門之助と改る。ふ一番目三立目岩倉山の杣人巌崖の六郎義。本名長田九郎
宗宗。松本幸四郎。ゆて巫市大度袖まさかりを持。大木の根杏ゆ洞める。而ふ立務の早太
忠純。園義ふ。ふ義ふ。下ふ赤子の谷人。蔵ゆ抱て居る

見えぬせり巴。荒ぶるるるひふ斗アラ巴。まようあくけ合の向荅めて。頼政の家来八剱左馬之名乗り。後ろ倉の宮れ巴貫打換使ふ。三年以来殺しる狐の子孫左近狐八百義。お辰狐ぬ四郎ぶ恨をみさんとする射帯巴狐ぬ王の巴剱を接を勅使信貫伝九郎彩政ふ義。猪の早太。三人ふ之わふふれ。芸田の左郎と名乗ふ。荒ぶ巴。一番目かくふ工ハ皆をれが悪ぶ。久振て業とさふ巴。老をそれぶち殺せと逃て這入る而大ぶ巴。清盛仲義。競澄に市川団十郎。初番大評判。二役尾瓶の三郎。常盤ごぜん令狐兵の局門之助。荒の巴。赤之助。藤田左の ぶふ義十郎。らいどう阿闍梨仲義。嵐となる而大めうり。長田女房清之助。白幽ふ松江。山下治郎之。山下八尾義下り。延引ふ狂言ふ生ど。同市村座

七天来伊呂波縮　伊義法清義五郎。行事にく。川越の之郎度治。又野の五郎助ふ郎。相撲の押出し荒ぶ。尾上松助。元服して立役八幡の三郎。若ふ美市村吉ふ郎。改名して坂東義三郎とふり。立義令石丸の役。伊義入ふ之甫左衛門。近江の小義をふ辰十郎。二役ふ小猿付改ふ義ふ郎。名ぶ折大を郎。実ハ頼紀下り嵐之五郎。烏滸の湯をきて下ふ家ふ恐びの者ふ

ふと帰り。長尾の彩吾ふ動左衛門忍び出ると切こと巴。椰の実ふ義。これをうと巴故ふと一ー住ふ。公中に長尾ぶ脱を我ふ巴て。小指を切山木の判官友衛門ふ後脱を指られそと抜る而大ぶ巴。ふ人ふそめり。三番目第之恋湯娘の生ふ之五郎彩政ふ左衛門梶原ふて富本豊三郎ふ清ふり。おやま紅雲素顔。ふ而他大南り。同市村座

都源妓王妓　田ふ社又ふ郎なふ郎。角前髪赤海ふ信彩ふ中村四郎ふ郎。後ふ三国屋ふ郎。まんぢ白姫雄次郎の首と対ふと。ふ而ふ渋谷の今王姉横木下り中村富十郎。暫ふて生ふ五郎と之番曳の之まふて荒ふふ。長田ふ廣右衛。近江の源ふ郎。初番二役ふ目清盛ふ郎。ふんぢの次郎義十郎。宇治ふ助十郎。左神楽の仁義。実ハ梶原ふ郎彩政ふ郎。佛ふふ下り中村歌右衛白拍ふ妓王ふ富十郎。常盤ふ左ふ実清ふり。而他大南り。同市村座

明和八年　ふ中村座

堺町曽我実録記　ふ工義祐経仲義。十郎ふ義。五郎団十郎。鬼王団義大ぶ巴。二番目ふ清幸四郎。二役ふより宮古路薗八清ふり。ふ清ふ下り山下八尾義。久松ふ門之助。おくま四郎徒義ふ八百義。おちよ今他ふ之清ふ義。右六人の道行ふり。幸四郎おちよ田舞ふ清ふ。

下り山下治郎と花岡松柏といふ医者にて仲町義者おちよ丞惣松柏しやとしのおかしみ
なる沖ゑて助六ゑ国十郎。あげ巻ゑ四郎。意久ゑ仲義。白酒うり国義。大鼓り市村座

相田酒屋紋三組　工藤第五郎。十郎と五郎。ゑ羽左衛門。小栗の十郎ゑ廣次。此の左司ゑ助五郎
桜山付廣ゑ松本友十郎。郭ひるゑ三甫左衛門。桜山と郎友左衛門。花道ゑ曽我兄弟東の
出の行ゑ小栗と池の左司。女方一度ゑ対面のせりゑ大でた。二ぢん目十郎ともよたの物と助
と五郎。早智り大評判。第三悪けいせい常陸とるゑ取形迎ゑ獄ゑ松助。団治ゑ悪松の
忠左衛門廣次獄門の庄三清助ゑ郎。女人花ゑなる出入とその仕あい評ちんは。森田座

回方曽我実録　工藤と治五郎。十郎と治ゑ郎。付家員雛次郎。ひるゑ十郎。国三郎に富十郎
竹接五郎。郭ひるゑ大根馬。波五郎と草摺を一ゑ引ちう。鬼王ゑ五郎ゑ引ちう。波ゑ
文霧ゑ野辺。伊左衛門富十郎評判は。山科四郎十郎下る。今年卯三月廿九日長唄ゑ女と
ゑきとくある富士田吉次終る。修善院楓江日恩ト芝金杉正徳寺に印を残を中ゑ座

夏狂言　忠臣蔵　由良之助ゑ義。孫平ゑ四郎。定九郎と本義。伴義判官と儀平八郎

おゑ松江。お石とおちよのかほよ花ゑ三役今年。とるせゑ浪ゑ助。九ちまゑ次郎三つゑ助
国十郎。原丞と。平右衛門半四郎。大評判ゑ。森田座

千本桜　忠信。源九郎狐ちけの局三役
富十郎。静ごぜん弥陀兵衛と義経十郎。ちや源左衛門。小今吾と。源ちけゑ
三郎ゑ郎。浪平とゆゑみの権ちは五郎ゑ。中村座秋

田村麿七重累　友成ゑ国十郎。演成ゑ
ゑ義。たけ成ゑ八百義。田村丸中村少長さくゑ子姫ゑ四郎。羽ケ村の累。浪ゑ助ゑ左衛門ゑ
国義ゑ。市村座

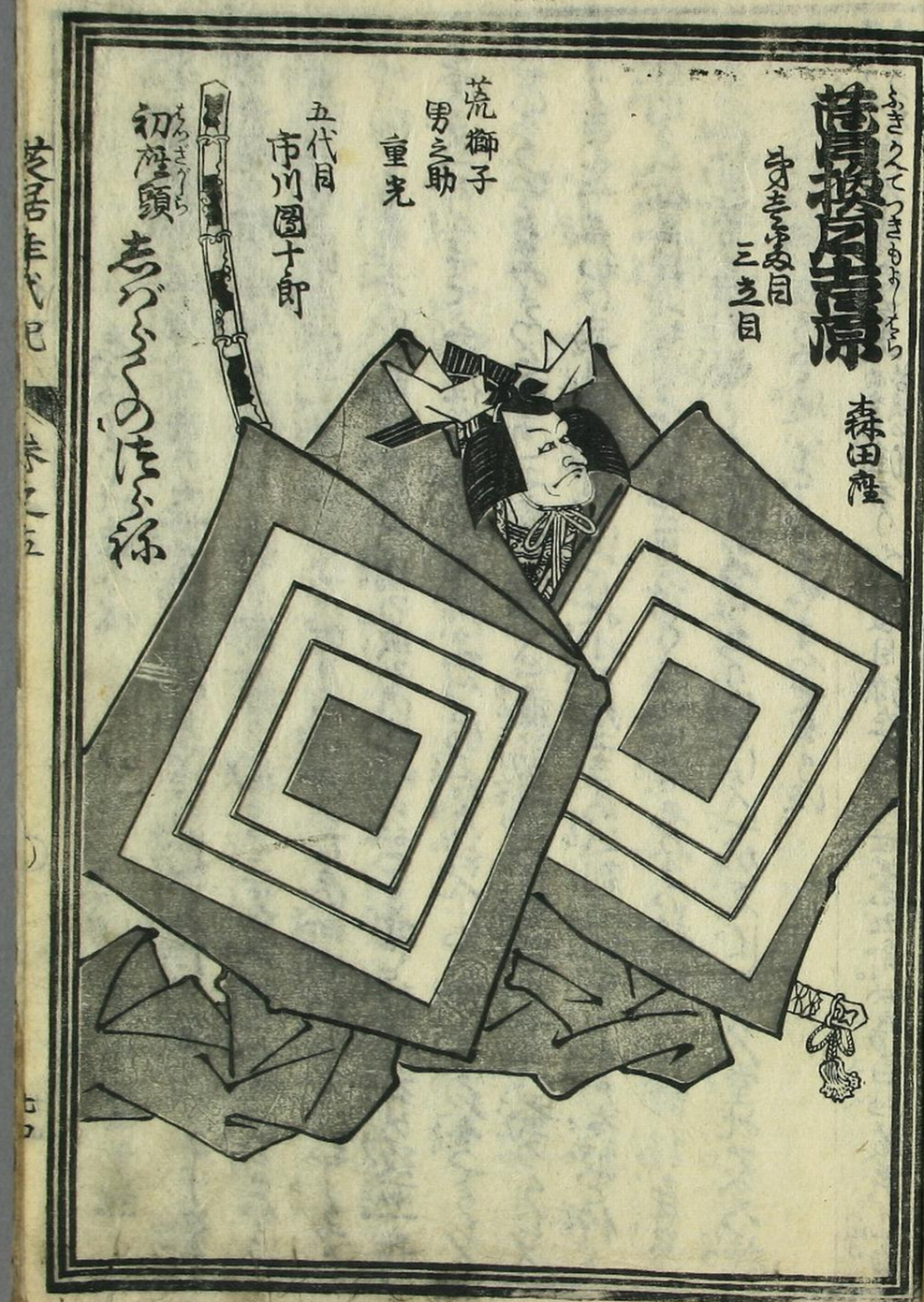
けいせい花載帯　伊左衛門ゑ羽左衛門。山三ゑ三郎。羽左衛門。都見物左衛門。大ゑ
絵の面。他大でた第三ゑ病ちまゑ休む。

鏡草七束帯　女将門富十郎評判は。同ゑ敷人世。
中村座

倭花小野五文字　小町ゑ山下八百義。井筒ゑ助成平ゑ門ゑ助。巨勢の今岡ゑ仲義。花岳
耳四郎。三甫左衛門招魂の法をゑて大伴の山主安四郎を蘇生させ。祇園精舎の汚清と打
卒ちんとする。面ゑ抜ゑ五郎。国義暫ゑて出。山ちう首と付べ白骨と成。面ゑ。有明ゑ四郎。
よし峯は宗貞八百義。さくゑ木ゑ松江。乙女の姿ちと。留めんとするゑ。大でた。ちうゑ少長
沙ゑやゑ浪ゑ助。五代三郎ゑ四郎ゑて小町なんきの場へ長上下にて出。まりなくにの奇ゑ浪

蔵。小町が歌ゆゑ遠国と敵役をきめ後より上臈子の内ゆゑ。古今集を懸るぶら現の為をりてとゆゑ山桜万作ゆゑ水神を持上るゆゑ只者ならぬと夫より梅の枝を切るゆゑ内を入れ。それより角力をとりまれ立ちうち梅の枝へ付るゆゑ當の事情ゆゑ怪。又柳樹の琴の糸。蛙の糸ひくを入て。當蛙の古るをつく絲入る正ぬくの狂言。此正江戸中代評判古今の大当り。次ゆゑ山桜ゆゑ入筆世ゆゑ悟り。滅い盗賊の張本。立烏帽子とこえ殿殺を付対て付ゆゑ。ゆゑは。鶴婚返れ五代三郎と三立目山主の役をつゆ狂言見物の侍は。二幕目大江の岩戸為つ国家。年れ一番を山下次郎三松風ゆ仲義。村為ゆ四郎。中納言行平ゆ義。浄瑠理懐花郭馴閨常盤津文字太夫ゆて正瓶大当り。頂戸の大領ゆ佐九郎。同く市村座ハ

梅世紙鉾　まゆ紙左衛門番綱第五郎。弓削大助と付頼三五郎。甲賀三郎度次刀根の弾正友左衛門家高祝王三郎右衛門横木姫民義雪の戸雛沿原田六郎ゆ又七郎若狭の助司恭村怨念甲掛山の悪鬼ゆ左衛門。紅葉狩猩々丹前。豊名賀志妻太夫と。



ちばりく けたふ 祢　五代目　市川團十郎

東夷南蠻骨継心秋疫癘の大妙薬つぎ打ちたの愈と親仁ゑ濃りれこそす稼面。
材の素絶も附ゑ拙納豆ゑ汁のこんぢく盛りさろ生ゑろ三ゑ荒ゑ東山ゑ改ゑこかられ
ゑ荒獅子男ゑ助ゑ成満生ゑ手ゑりて十八町。きろ〳〵訓深のむろの町。御幼わきれおゑうまれ
あつゑ捕くも荒事の血筋ゑ受ゑ持病の虫そのほ化のおこと業ゑかく〳〵弁の役ゑ一升
一寿ゑ又一升合ゑそゑ弁住ゑ。森田勘彌ゑ孫ゑ名ゑ荒獅子ゑ男ゑ助ゑ成満生ゑ手ゑ里訓ゑ嘗れ蚕のうちの
指ゑ出ゑうゑ。いとゑみゑうゑ。ゑ夜ゑ月ゑ。夜ゑろのぐゑ赤筋隈。まゑ里訓ゑ嘗れ蚕のうちの
姫ゑとゑきゑと。一声ゑかけゑ盲蛇ゑ法者ゑゆづゑれ小刀ゑ細ゑきゑ。ゑ込ゑ刻ゑ込ゑ孫ゑ。ゑ木戸ゑ敬ゑ作ゑ
夜ゑの月ゑ。ゑ伊ゑ成ゑ様ゑ。ゑ同ゑ。ゑ人ゑ。ゑ。ゑさゑの〳〵ゑ。ゑ者。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ新ゑ板ゑ行ゑ。ゑ。ゑ。

の作者菜陽子。伊勢の大掌なり。同年彦之世坂田の五郎。京四條三郎徒次郎座人登り。

都吉野帝閣 ゐ栗生左衛門なれど。五人組の子孫平と成。五人奴ゐ姿びての出大尚とゝ。同三郎座

あて沢村田三助え服して親の名ゐ改る。生付の評判記よ 上上 ゐ 沢村宗十郎 三郎丸

甲の赤ふ 却ゆよい男ぶりゐるくれこで。弱ゐ者ゐ付ゐ。ゐ者ゐ形けさくなゐゐゐ。ゐ姿ゐ性ゐ。ゐくびゐ

大名付はて法華宗 万年日 尚彦之世彩国義助なれど。深ゐ姿ゐ小姓ゐ性きくゐ大分ゐ

偽りゐ。ゐ食ゐて義ゐ坂ゐ濃義ゐ。ゐて投ゐゐ。ゐ姿ゐ。ゐ姿ゐ。ゐ姿ゐ。ゐ姿ゐ

法華ふ人とする付。細六郎左ゐ。ゐ本名ゐ同れ直彩ゐ。尾上彩七 ゐ小ゐ。ゐ額ゐ成ゐ

付ゐれ。ゐ念ゐ仕ゐよゐ。ゐ切仕ゐ。ゐ屋ゐ。ゐ三桝徳治ゐ。ゐ新ゐ。ゐ白髪ゐ

鬱ゐ。ゐ仕ゐ。ゐ性ゐ。ゐ大佛大学 嵐ゐ。ゐ姿ゐ。ゐ姿ゐ。ゐ姿ゐ。ゐ姿ゐ

あて未形母。ゐよゐ。ゐ切ゐ。ゐ大ゐ。ゐ仕ゐ

同ゐ大ゐ。ゐ。ゐ。